様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２７ 日現在

機関番号：３３９２５
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2020～2022
課題番号：２０Ｈ０１２５３

研究課題名（和文）危機と再生のヴィジョン：ドストエフスキー文学の世界性をめぐる超域的研究

研究課題名（英文）Visions of Crisis and Renewal: A Supra-Regional Study of the Worldliness of Fyodor Dostoevsky's Literature

研究代表者
亀山　郁夫（Kameyama, Ikuo）

名古屋外国語大学・その他部局等・学長

研究者番号：００１２２３５９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　13,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、ロシアの作家フョードル・ドストエフスキーの文学における「危機」と「再生」のヴィジョンをめぐって、これを超領域的な視野から明らかにしようとする試みである。具体的には、歴史（革命、テロリズム、疫病）、宗教（教会、古儀式派）、文学（グラフィックな想像力）、人間（死、病）の諸相における危機の現実がどのように描かれ、また危機の克服と再生のビジョンがどのように提示されたかをめぐって明らかにした。同時に、本研究は、彼の文学の持つ世界的な意義を明らかにする目的から、世界諸地域におけるドストエフスキー受容の実態を、主に音楽、映画等の表象芸術におけるリメイク等の試みを通して個別具体的に明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
フョードル・ドストエフスキーは、19世紀の欧米作家の中で、現在でも最も熱心に読まれている作家の一人であり、彼が提出した一連の問題は、後世の文学、芸術、哲学、思想、社会評論に絶大な影響を与えた。2022年2月に勃発したウクライナ戦争では、その思想的背景をめぐって、彼の宗教観、歴史観が大きく参照されたが、本研究で得られた成果は、この問題の解明に一定程度の貢献を果たすことができた。また、本研究は、黒澤明やベルトルッチ、プロコフィエフら20世紀の芸術文化に対する彼の影響を明らかにするもので、個々の作品に対する鋭利なアプローチは、将来における表象文化全般の進化・発展に大きく寄与するものと考える。

研究成果の概要（英文）：This study is an attempt to clarify the Russian writer Fyodor Dostoevsky's vision of "crisis" and "rebirth" in his literature from a transdisciplinary perspective. Specifically, we have clarified how the reality of crisis in various aspects of history (revolution, terrorism, plague), religion (church, archaic ritualism), literature (graphic imagination), and man (death, disease) was depicted, and how the vision of overcoming crisis and rebirth was presented. At the same time, with the aim of clarifying the global significance of Dostoevsky's literature, we have also clarified the reality of the reception of Dostoevsky in various regions of the world, mainly through attempts at remakes in music, film, and other representational arts.

研究分野：ロシア文学

キーワード：ドストエフスキー　カタストロフィ　再生　古儀式派　テロリズム　グラフィックな想像力　表象文化　世界性

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

19 世紀ロシアを代表する作家フョードル・ドストエフスキー（Fyodor Mikhailovich Dostoevsky:1821-1881）の文学は、今日では、もはや 19 世紀という歴史的な枠に限定できない、「世界文学」としての普遍的な高みに立つ作家と呼ぶことができる。人文学的思考の頂点に位置する作家と呼ぶことも可能である。彼の文学は、また、過去 150 年間以上にわたって、世界の優れた作家、芸術家、思想家、歴史家、さらには科学者に影響力を与えてきた。同時にまた、埴谷雄高の「時代とともに成長する作家」という言葉が示す通り、時代が何かしら試練に立たされるたびに、彼の文学の予言性が認識され、個々の問題を考える際の重要な参照項として引用されてきた。その理由を一言で言い表すなら、何よりも彼の文学のはらむ危機意識の強さにあるということができる。具体的には、人間精神の危機から、ロシアを含むヨーロッパ社会の危機、さらには人類の存亡にかかわる問題にいたるまでありとあらゆる領域に及ぶ。そしてその危機意識が、従来の文学の概念を大きく変えて、たとえば、バフチンの指摘するポリフォニー性、カーニバル感覚といった革新的な方法論へと彼の文学を導いていった。本研究「危機と再生のヴィジョン：ドストエフスキー文学の世界性をめぐる超域研究」は、そうしたドストエフスキー理解の上に立ちつつ、先行研究「カタストロフィの想像力：ドストエフスキー文学の現代的意味とその世界展開」（2017 – 2019）の後継として着想された。したがって、研究に着手した当初の学問的背景に大きな変化はないが、ソ連崩壊後のロシアが周辺の地域との間に起こした諸紛争、とくに 2014 年に本格化するウクライナ紛争等の現実を見るにつけ、ロシア的な精神性の何たるかを深く探ることなくして根本的な解決には至らないこと、またその精神性の複雑な成り立ちをドストエフスキーの文学から読み取ることが可能であるとの認識にいたった。他方、そうした作家の危機意識の強さは、世界の文学のみならず、世界の表象文化全体にも影響をもたらし、とりわけ欧米の先進的な映像作家たちの間で優れたパロディ、リメイクを生んだ。また、グローバリズムやＡＩ技術の進展によって、世界中に極端な二極化の現象が表れ、ポストヒューマニズム的な思考が大きな流れを形成しつつあることが明らかになったが、これらの問題についても、ドストエフスキーが先見的なヴィジョンをもっていたことが知られている。以上が、本研究を開始するにあたっての私たちの問題意識の背景にあったものである。

２．研究の目的

本研究では、ロシアのドストエフスキーの文学のもつ世界性（世界的意義）について、「危機」の想像力と「再生」のヴィジョンをキー概念としながら、主に次の二つの観点から解明することを目的とする。すなわち、Ⅰ、アレクサンドル二世暗殺を頂点とする 19 世紀ロシアの社会と人間が陥った危機の諸相を明らかにし、ドストエフスキー文学との関連性を次の４つの視点（「歴史の危機」、「宗教の危機」、「文学の危機」、「人間の危機」）において明らかにする（以上、基盤研究）、Ⅱ、ドストエフスキーが開陳した危機意識とそこからの再生または救済のヴィジョンは、世界のほかの諸地域の文学や表象文化全般（映画、演劇、美術ほか）にどのような影響を与え、リメイクされたかを個別具体的に明らかにすることを目的としている（以上、応用研究）。

３．研究の方法

本研究の遂行にあたっては、本研究の研究分担者、研究協力者を以下の二部門に編成した。

■第１部門「ドストエフスキーと 19 世紀ロシア社会」

１「歴史の危機」:「ドストエフスキーとテロリズムの関係性」
分担：亀山郁夫、齋須直人

２「宗教の危機」:「ドストエフスキーのロシア正教および異端派との関係性」
分担：望月哲男、越野剛

３「文学の危機」:「ドストエフスキーとトルストイ他の文学に現れた危機意識」
分担：番場俊、望月哲男

４「人間の危機」:「ドストエフスキー文学に描かれた人間の危機と救済のヴィジョン」
分担：越野剛、沼野充義

■第２部門「世界諸地域におけるドストエフスキー表象」

１　スラブユーラシア地域（ロシア、ウクライナ、チェコ、ポーランド）
分担：番場俊、齋須直人

２　ヨーロッパ地域（イギリス、ドイツ、フランス、イタリア）
分担：甲斐清高、白井史人、林良児

３　アメリカ地域（アメリカ、カナダ）
分担：梅垣昌子

４　ラテンアメリカ地域（アルゼンチン、ブラジル）
分担：野谷文昭

５　東アジア地域（日本、韓国、中国、台湾、フィリピン）
分担：藤井省三、越野剛

６　南・西アジア地域（インド、イラン、トルコ、エジプト）
分担：越野剛

４．研究成果
本研究の成果は、一に、３年間の研究機関に実施された国際シンポジウム、国際ワークショップ等における口頭発表、二に、本科研に参加している研究分担者による個々の論文、研究発表等によって示される。海外から研究者を招聘しての共同研究、ワークショップは、コロナ禍、ウクライナ戦争という困難な状況にありながらも、ほぼ目標を達成することができた。逆に、本研究に関わる研究分担者の海外での資料収集、打ち合わせ、調査等は困難をきわめた。幸いにも、ドストエフスキー生誕 200 年という記念すべき年にあたり、各種メディアのドストエフスキーに対する注目度は高く、３年間の研究期間に、単行本、雑誌によるドストエフスキー関連の大部の著作を刊行できたことは、大きな自信につながった。
■2020 年度の成果
「危機と再生のヴィジョン:ドストエフスキー文学の世界性をめぐる超域的研究」と題する本研究の初年度(2020 年度)実績は、何よりも、2021 年 2 月に行われたドストエフスキーの生誕 200 年を祝賀するシンポジウム「ドストエフスキーと《危機》の想像力」（2021 年 2 月 28 日）をもって最大の成果とする。午前の部「多面的なドストエフスキー」と題するセッションでは、齋須直人が、ロシアの学校教育科目《文学》の教科書においてドストエフスキーがどう扱われているか、また、研究代表者の亀山郁夫がドストエフスキーが掲げる基本的テーゼの一つ「美は世界を救う」をめぐって発表を行った。午後に予定していた二つのシンポジウムでは、海外の研究者を招聘できなかったものの、基調講演者として長縄光男氏(横浜国立大学名誉教授)を招聘することができ、「ドストエフスキーとゲルツェン」と題する講演によって 19 世紀後半ロシアの「危機」をめぐる両者の世界観の差異が明らかにされた。続く第１シンポジウムでは、沼野充義による基調講演「コロナ禍の時代に『罪と罰』を読む」をめぐって科研メンバーが、コロナ禍に関する危機意識とドストエフスキーが生きた時代の問題性(たとえばコレラ禍)を明らかにした。また、第 2 シンポジウムでは、亀山郁夫が、19 世紀後半のロシア社会を襲った「危機」をテーマとする基調講演「なぜ、《アルカージー》なのか? 『未成年』への一視角」を行い、社会の分断に襲われたロシア社会の「無秩序」の表象化と、「文化(プロスヴェシェーニエ)」の力の涵養にロシア社会が陥った袋小路からの脱出を見る作家の世界観を明らかにした。その他、研究分担者は、種々の発表媒体を通して(論文、エッセー、口頭発表)によって各自研究発表を行った。
【シンポジウム詳細】
（１）生誕 200 年記念ドストエフスキーシンポジウム
・日時：2021 年 2 月 28 日　午前 10 時～午後 5 時半
¶第Ⅰ部「多面的なドストエフスキー」
齋須直人：「ロシアの学校教育科目《文学》の教科書に見るドストエフスキー」
福井勝也：「ドストエフスキーの政治思想」～渡辺京二氏の著書に触発されて」
亀山郁夫：「『美が世界を救う』　ドストエフスキーにとって美とは何か」
¶第Ⅱ部　特別講演
長縄光男「ドストエフスキーとゲルツェン――問題の所在」
¶第Ⅲ部　シンポジウム
・シンポジウム(１)「コロナ禍時代に考えたこと」
沼野充義「コロナ禍の時代に『罪と罰』を読む」（基調報告）
パネリスト；林良児、甲斐清高、白井史人、梅垣昌子、藤井省三、野谷文昭、番場俊、望月哲男、越野剛、齋須直人
¶第Ⅳ部　シンポジウム
・シンポジウム(２)「ドストエフスキーと《危機》の想像力」
基調報告：亀山郁夫「なぜ、《アルカージー》なのか　　ドストエフスキー『未成年』への一視覚」
パネリスト：望月哲男／越野剛／沼野充義／番場俊
■2021 年度の成果
本研究二年目(2021 年度)は、何よりも、2021 年 12 月 5 日にドストエフスキー生誕 200 年を記念して開催した研究集会「私たちの、魂の同時代人ドストエフスキー」（2021 年 12 月 5 日）が挙げられる。冒頭に望月哲男による記念スピーチ「記念祭によせて:ドストエフスキーについて考えたこと、書いたこと」が行われ、次に、齋須直人が世界のドストエフスキー生誕 200 年を祝する行事に関するレポート「世界におけるドストエフスキー生誕 200 年」を行った。本シンポジム「ドストエフスキー200 年、『悪霊』150 年、文学研究 100 年」では、番場俊が同名の基調報告を行い、亀山郁夫、越野剛、望月哲男がコメントを行った。締めくくりとして、本科研メンバー全員およびゲストの研究者が、「ドストエフスキーと私たち」と題するコメントを発表した。これら研究集会とは別に、亀山郁夫、越野剛、番場俊、望月哲男の四名によってドストエフスキー関連の書籍と雑誌が編まれた。一つは、『ドストエフスキー 表象とカタストロフィ』(名古屋外国語大学出版会、11 月、総 303 頁)であり、もう一つは、『現代思想』によるドストエフスキー特集号(11 月、総 422 頁)である。その他に、亀山郁夫によるドストエフスキー関連の著書『ドストエフスキー 黒い言葉』が刊行された。その他、研究分担者は、種々の発表媒体を通して(論

文、エッセー、口頭発表)によって各自研究発表を行った。
【シンポジウム詳細】
（２）　生誕 200 年記念ドストエフスキー記念シンポジウム１　「私たちの、魂の同時代人ドストエフスキー」
・日時　2021 年 12 月 5 日（日）11 時半～17 時半
¶第１部　記念講演
望月哲男「記念祭によせて：ドストエフスキーについて考えたこと、書いたこと」
¶第Ⅱ部　　・基調報告とシンポジウム
齋須直人「世界におけるドストエフスキー生誕 200 年」
シンポジウム１　「ドストエフスキー200 年、『悪霊』150 年、文学研究 100 年」
基調報告：番場 俊「ドストエフスキー200 年、『悪霊』150 年、文学研究 100 年」
パネリスト：亀山 郁夫、越野 剛、望月 哲男
シンポジウム２　「ドストエフスキーと私たち」
報告；甲斐 清高　梅垣 昌子　白井 史人 福井 勝也　林 良児　齋須 直人　木寺 律子　野谷 文昭　亀山 郁夫　越野 剛 番場 俊　望月 哲男
■2022 年度の成果
本研究三年目(2021 年度)は、1)2022 年 8 月と、2)2023 年 2 月にわたって開かれた国際ドストエフスキープレシンポジウム「ドストエフスキー　―-解釈と受容の可能性」(2022 年 8 月 8 日)、国際ドストエフスキーシンポジウム「カラマーゾフの母たち」(2022 年 8 月 19 日)、及び国際ドストエフスキーワークショップ「ドストエフスキーの人間論の原理」(2023 年２月 21 日）での個々の発表、討議、コメント等を最大の成果とする。2022 年 2 月のロシアによるウクライナ侵攻は、本研究テーマの現代性を図らずも裏付ける結果となり、亀山郁夫、望月哲男、越野剛、齋須直人らを中心に、その研究成果は、雑誌、新聞、ウェブ上にて発表された。1)の国際シンポジウムでは、国際ドストエフスキー学会長キャロル・アポローニオ氏を記念講演者として招き、『カラマーゾフの兄弟』における母性性の多様な発現をめぐる研究発表が行われた。研究代表者の亀山郁夫は「『カラマーゾフの兄弟』における隠された引用」と題する報告で、ドストエフスキーにおける「父殺し」の意味と問題意識の誕生を彼の伝記的事実と隠された引用の両面から掘り下げ、作家における精神の危機の問題に肉薄した。次に、2023 年 2 月の国際ワークショップ「ドストエフスキーの人間論の原理」では、世界的を代表するウラジーミル・ザハーロフ氏を基調講演者とし、対論者を越野剛として、より包括的な視点から、今回のウクライナ戦争をも念頭におきつつドストエフスキー文学における人間存在の意味と作家の立ち位置について議論がなされた。また、望月哲男は、『死の家の記録』『白痴』を念頭において、ドストエフスキー文学における「許し」の主題を追究した。なお、亀山郁夫の論文「冷たくあれ、熱くあれ」は、歴史と文学に現れる「幼児殺し」の主題を介して、今回のウクライナ戦争における為政者の深層心理を分析するものである。
【シンポジウム詳細】
（３）国際ドストエフスキープレシンポジウム「ドストエフスキー　―-解釈と受容の可能性」
・日時：2022 年 8 月 8 日　14:00～16:00
¶研究報告
亀山郁夫「『カラマーゾフの兄弟』におけるある隠された引用」
梅垣昌子「ドストエフスキーとアメリカ映画」
議論・質疑応答：キャロル・アポローニオ
（４）国際ドストエフスキーシンポジウム「カラマーゾフの母たち」
・日時：2022 年 8 月 19 日　13:50～17：00
¶第１部　研究報告
ウラジーミル・ザハーロフ「『カラマーゾフの兄弟』において誰がアレクセイ・ドストエフスキーとなったのか」
町田航大「「大審問官」と『ヨブ記』」
齋須直人「現代日本におけるドストエフスキーの受容：研究、学校教育、ファン・フィクション」
¶第Ⅱ部　記念講演
キャロル・アポローニオ「カラマーゾフの母たち」
議論・質疑応答（望月哲男、越野剛）
（５）国際ドストエフスキーワークショップ「ドストエフスキー　人間論の原理」
・日時：2023 年２月 21 日（火）13:30-18:00
¶第Ⅰ部　基調講演「ドストエフスキー　人間論の原理」
ウラジーミル・ザハーロフ「ドストエフスキー　人間論の原理」
　議論・質疑応答　　コメンテーター　越野剛・木寺律子
¶第Ⅱ部「多様なドストエフスキー」
町田航大「ドストエフスキーとゴーリキー: ヨブ記が示す思想的共鳴」
齋須直人「トゥルゲーネフの詩『花』とドストエフスキーの中編『白夜』」
桜井厚二「1972 年の『悪霊』：日本のメディアにおける一つの伝説」
望月哲男「謝罪と許しの形：アクーリカとナスターシャ」
¶第Ⅲ部　フリーセッション

なお、本研究の最大成果の一つである亀山郁夫、望月哲男、番場俊、甲斐清高編『ドストエフスキー 表象とカタストロフィ』（(名古屋外国語大学出版会、2021 年）の内容について以下、本研究分担者の分のみを紹介しておく。

・亀山郁夫「恍惚とニヒリズムの境界―ベルトルッチとドストエフスキー」（106-130 頁）
・望月哲男「文字と絵　ドストエフスキーのカリグラフィーに関する若干のコメント」(38-49 頁）
・番場俊「ドストエフスキーとグラフィックな想像力」（2-17 頁）
・越野剛「現代アジアの映画・テレビドラマにおける『罪と罰』の翻案」（52-67 頁）
・林良児「プルーストの影―ロベール・ブレッソンとドストエフスキー」（90-10４頁）
・高橋健一郎「プロコフィエフのオペラ《賭博者》の革新性」132-145 頁）
・梅垣昌子「『罪と罰』そして償えない人々―ウディ・アレンとドストエフスキー」（68-88 頁）
甲斐清高「ムイシキン公爵とミスター・ピクウィックードストエフスキーの見たディケンズ」（204-217 頁）
齋須直人「ロシアの学校教育科目「文学」の教科書に見るドストエフスキー」（158～175 頁）

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計18件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 亀山郁夫	４．巻 1154
２．論文標題 「大審問官」の作者はだれか？	５．発行年 2020年
３．雑誌名 思想	６．最初と最後の頁 68-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 亀山郁夫	４．巻 43-10
２．論文標題 ジュネーヴのドストエフスキー（前編）	５．発行年 2021年
３．雑誌名 すばる	６．最初と最後の頁 110-112
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 亀山郁夫	４．巻 43-11
２．論文標題 ジュネーヴのドストエフスキー（後編）	５．発行年 2021年
３．雑誌名 すばる	６．最初と最後の頁 208-221
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 亀山郁夫	４．巻 49-14
２．論文標題 瓦解と再生のヴィジョン　ドストエフスキー『未成年』における「境界」の想像力	５．発行年 2021年
３．雑誌名 現代思想	６．最初と最後の頁 382-395
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 亀山郁夫	4．巻 84
2．論文標題 ジュピターよ、汝は怒れり	5．発行年 2022年
3．雑誌名 遼	6．最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 亀山郁夫	4．巻 45-1
2．論文標題 冷たくあれ、熱くあれ	5．発行年 2023年
3．雑誌名 すばる	6．最初と最後の頁 186-199
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 望月哲男	4．巻 1154
2．論文標題 聖と俗・未来の図像ーフォーキン氏の論考の整理と若干の展開	5．発行年 2020年
3．雑誌名 思想	6．最初と最後の頁 62-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 望月哲男	4．巻 49-14
2．論文標題 アクーリカの周辺ー『死の家の記録』の風景から	5．発行年 2021年
3．雑誌名 現代思想	6．最初と最後の頁 295-310
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 越野剛	4．巻 48-7
2．論文標題 コレラ・放射能・流言　ロシア文学と感染する言葉	5．発行年 2020年
3．雑誌名 現代思想	6．最初と最後の頁 178-183
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 越野剛	4．巻 1154
2．論文標題 シンボルとしてのことば	5．発行年 2020年
3．雑誌名 思想	6．最初と最後の頁 64-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 越野剛	4．巻 49-14
2．論文標題 ドストエフスキーにおける病気と火事ー『白痴』のナターシャの身振りを再考する	5．発行年 2021年
3．雑誌名 現代思想	6．最初と最後の頁 267-275
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 番場俊	4．巻 1154
2．論文標題 象徴から問いへ	5．発行年 2020年
3．雑誌名 思想	6．最初と最後の頁 66-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 林良児	4．巻 49-14
2．論文標題 フランス文学とドストエフスキー	5．発行年 2021年
3．雑誌名 現代思想	6．最初と最後の頁 132-140
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 高橋健一郎	4．巻 49-14
2．論文標題 ドストエフスキーと音楽	5．発行年 2021年
3．雑誌名 現代思想	6．最初と最後の頁 141-142
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤井省三	4．巻 144
2．論文標題 美しい眼の乙女の死と　Hopeー魯迅における『チリコフ選集』翻訳と「酒楼にて」創作をめぐって」	5．発行年 2022年
3．雑誌名 東方学	6．最初と最後の頁 57-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 梅垣昌子	4．巻 49-14
2．論文標題 ドストエフスキーの文学遺伝子　映像表現における表層の反復と融合	5．発行年 2021年
3．雑誌名 現代思想	6．最初と最後の頁 155-166
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 甲斐清高	4．巻 49-14
2．論文標題 『罪と罰、「マーカイズム」そして『ジギルとハイド』	5．発行年 2021年
3．雑誌名 現代思想	6．最初と最後の頁 126-128
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 齋須直人	4．巻 49-14
2．論文標題 ドストエフスキーのキリスト教的価値観と対話的小説世界	5．発行年 2021年
3．雑誌名 現代思想	6．最初と最後の頁 248-257
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計10件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 亀山郁夫
2．発表標題 「美が世界を救う」ードストエフスキーにとって美とは何か
3．学会等名 日本ドストエフスキー協会主催ドストエフスキーシンポジウム
4．発表年 2021年

1．発表者名 亀山郁夫
2．発表標題 なぜ、《アルカージー》なのかードストエフスキー『未成年』への一視覚
3．学会等名 日本ドストエフスキー協会主催ドストエフスキーシンポジウム
4．発表年 2021年

１．発表者名 亀山郁夫
２．発表標題 『カラマーゾフの兄弟』におけるある隠された引用
３．学会等名 日本ドストエフスキー協会主催国際ドストエフスキーシンポジウム
４．発表年 2022年

１．発表者名 望月哲男
２．発表標題 謝罪と許しの形：アクーリカとナスターシャ
３．学会等名 日本ドストエフスキー協会主催ドストエフスキー国際シンポジウム
４．発表年 2023年

１．発表者名 番場俊
２．発表標題 ドストエフスキー200年、『悪霊』150年、文学研究100年
３．学会等名 日本ドストエフスキー協会主催ドストエフスキーシンポジウム
４．発表年 2021年

１．発表者名 沼野充義
２．発表標題 コロナ禍の時代に『罪と罰』を読む
３．学会等名 日本ドストエフスキー協会ドストエフスキーシンポジウム
４．発表年 2021年

１．発表者名 齋須直人
２．発表標題 ロシアの学校教育科目の教科書に見るドストエフスキー
３．学会等名 日本ドストエフスキー協会ドストエフスキーシンポジウム
４．発表年 2021年

１．発表者名 齋須直人
２．発表標題 現代日本におけるドストエフスキーの受容
３．学会等名 日本ドストエフスキー協会ドストエフスキー国際シンポジウム
４．発表年 2022年

１．発表者名 齋須直人
２．発表標題 ツルゲーネフの詩「花」とドストエフスキーの中編『白夜』
３．学会等名 日本ドストエフスキー協会主催ドストエフスキー国際ワークショップ
４．発表年 2023年

１．発表者名 梅垣昌子
２．発表標題 ドストエフスキーとアメリカ映画
３．学会等名 日本ドストエフスキー協会主催ドストエフスキー国際ワークショップ
４．発表年 2022年

〔図書〕　計3件

1．著者名 亀山郁夫	4．発行年 2021年
2．出版社 集英社	5．総ページ数 368
3．書名 ドストエフスキー　黒い言葉	

1．著者名 望月哲男	4．発行年 2022年
2．出版社 水声社	5．総ページ数 331
3．書名 〈超越性〉と〈生〉の接続　近現代ロシア思想史の批判的再構築に向けて	

1．著者名 亀山郁夫、望月哲男、番場俊、越野剛、甲斐清高、梅垣昌子、林良児、高橋健一郎、齋須直人	4．発行年 2021年
2．出版社 名古屋外国語大学出版会	5．総ページ数 312
3．書名 ドストエフスキー　表象とカタストロフィ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	白井　史人 (Shirai Fumito) (20772015)	名古屋外国語大学・世界教養学部・准教授 (33925)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	甲斐　清高 (Kai Kiyotaka) (50367835)	名古屋外国語大学・外国語学部・教授 (33925)	
研究分担者	野谷　文昭 (Noya Fumiaki) (60198637)	東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・名誉教授 (12601)	
研究分担者	梅垣　昌子 (Umegaki Masako) (60298635)	名古屋外国語大学・外国語学部・教授 (33925)	
研究分担者	藤井　省三 (Fujii Shozo) (70156818)	名古屋外国語大学・外国語学部・教授 (33925)	
研究分担者	高橋　健一郎 (Takahashi Kenichiro) (80364206)	大阪大学・言語文化研究科（言語社会専攻、日本語・日本文化専攻）・准教授 (14401)	
研究分担者	齋須　直人 (Saisu Naohito) (80886292)	名古屋外国語大学・外国語学部・講師 (33925)	
研究分担者	望月　哲男 (Mochizuki Tetsuo) (90166330)	中央学院大学・現代教養学部・教授 (32505)	
研究分担者	番場　俊 (Bamba Satoshi) (90303099)	新潟大学・人文社会科学系・教授 (13101)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	越野　剛 (Koshino Go) (90513242)	慶應義塾大学・文学部（日吉）・准教授 (32612)	
研究分担者	林　良児 (Hayashi Ryoji) (40123327)	名古屋外国語大学・外国語学部・教授 (33925)	
研究分担者	沼野　充義 (Numano MItsuyoshi) (40180690)	名古屋外国語大学・世界教養学部・教授 (33925)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計2件

国際研究集会 国際ドストエフスキーシンポジウム「カラマーゾフの母たち」	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 国際ドストエフスキーワークショップ「ドストエフスキー　人間論の原理」	開催年 2023年～2023年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関